

應接

曲五原(國)守筆



東海の姫氏國下九世連綿る律優の巨魁

市川流の十八番とて誰くも知る

歌舞技の數種ある中玉新振の新座

脚色る新任言の新開誌やらむ

つぎ一拙き寄書成新七大人ヶ補以

殿下新十八番吉備大臣

支那への問罪安祿山と應接ハ

強邁見づく

柔和



品格のよう

評判もて高貴の君も御覽一實よりぐじき大入の河原崎座と補翼はし

大久保つうても利通小樂屋の内務も力を盡して文武の切手て至る

便理の公當時日の出と幸光く茶亭々軒場の知章旗よく一きと高く

僅つるお不二の墨画り引幕の春木南溟老人ヶ八十算賀の宴會作りま

東方朔ヶ齡ひも比して目出さる仙家の桃實も因らる談のむく

西の果もて人と餐ふ鬼住む島へ航海り野蠻の去人と

征討た其高藤とも支那より治る償金瓜とつ

御膳朝て市々祭えと市川ひあき

日本一の吉備團十郎とホ、うやまうて賞す

支那物語の投書者

轉々堂主人記



三升優長



吳足屋

支那物語の投書者  
轉々堂主人記

